

里山における新たな鳥獣被害防止対策推進事業

目 的

近年、シカの生息域は、県北東部から県中北部へ拡大し、農林被害金額は約３千万円で推移している。特に、本格的な利用期を迎えた森林では、再造林による林業サイクルを循環させていくことが重要であるが、シカによるスギ・ヒノキの苗木への食害が増加するなど、森林所有者の林業生産の意欲を減退させる一因となっている。

こうした中、狩猟者の高齢化や減少が進展している中山間地域では、森林内に生息するシカの効果的捕獲対策への重要度が高まっており、その対策としてＤＸの導入を目指す地域があるが、新たな技術には課題が多いことから、その具体的かつ効果的手法の確立を目指す。

また、再造林地では、シカによる森林被害防止対策の効果的手法の確立への重要度が高まっていることから、再造林地における防護対策を進めるため、専門家を活用し、地域の実情に応じたシカ被害防止対策技術の確立を目指す。

令和７年度事業概要

1 事業内容

○ＤＸによる効果的なシカ捕獲技術の検証

市町村、狩猟関係者及び専門家と連携し、ドローンを活用した省力かつ効率的な捕獲技術の検証を行ったところ一定の成果が得られた。捕獲技術の効果をより高めるために、ＧＰＳデータに基づく生息域の分析やベテラン狩猟者への聞き取りを行い、シカの生息場所を推定する手法の確立に向けた検討を行う。



<ドローン>



<GPS首輪の装着>

○地域の実情に応じた森林被害防止対策の検討

再造林地における効果的かつ効率的なシカ被害防止対策に取り組む地区において、市町村、狩猟関係者及び専門家が連携し、シカ道の利用状況調査や食害リスクの評価等のデータ収集を行い、効果的な対策技術の確立に向けた検討を行う。

2 事業主体 県（株式会社野生鳥獣対策連携センターへ調査業務委託予定）

3 令和７年度 おかやま森づくり県民税充当額 6,000 千円